社会貢献活動 102-15,103-1

花王は、豊かな生活文化の実現とよりよい持続可能な社会に向けて社会貢献活動を推進しています。
事業で直接アプローチできない課題については、地域社会やNGO／NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため社員参加型の活動や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のためのメセナ支援、(財)花王芸術・科学財団による活動も行なっています。

ESGキーワード
手洗い啓発
花王・ベトナム衛生プログラム
月経教育・月経衛生環境向上への貢献
ピンクリボン活動
情報のバリアフリー
次世代育成
花王国際こども環境絵画コンテスト
若手社会起業家育成
花王ハートポケット倶楽部(社会的活動への社員参加)
タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト
メセナ支援
東日本大震災復興支援
新型コロナウイルス感染症への対策支援

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

清潔・衛生や健康は、人の暮らしの基盤ですが、経済格差、ジェンダーなどさまざまな格差がもたらす不平等から、現代の進歩に見合ったサービスを享受できていない人たちが数多く存在します。さらに、新型コロナウイルス感染症の脅威は、石鹸や清潔な水などにアクセスできない脆弱な立場にある30億人※の人々に大きな打撃を与えています。

また、先進国、新興国、開発途上国、それぞれの社会で抱える課題は違っても、毎日が充実し、心身が満たされこころ豊かに暮らせる社会がより一層求められていますが、世界幸福度調査では、世界全体の傾向として心配や悲しみなどネガティブな感情が増加しているのが現実です。

さらには、気候変動やごみ問題など、私たちの暮らしを支える環境に対する問題も、国際社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。

すべての生活者がその課題を意識し、日々の生活の中で行動を変えていく必要があります。

これら社会的課題の解決に向けて、企業はその事業活動を通じて貢献するとともに、企業の強みを活かした技術支援、啓発活動や寄付、連携などを通じた包括的な視点での取り組みを行なうことがますます重要になってきています。

※WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) 2019「Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017: Special focus on inequalities」

花王が提供する価値

花王は事業活動を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、事業や製品では直接アプローチできない多くの生活者、特に最も弱い立場の人々も含めた、誰もがこころ豊かで健康で快適な生活を実現できる社会をめざし、社会貢献活動、啓発活動などを通じて、広く社会に貢献していきます。

自社の持つリソースや強みを活かした、清潔・美・健康の事業領域において、また、地球環境に関わる課題において、生活者が行動を変え周囲の人にも影響を与えられるような啓発活動や、技術支援、寄付、異業種連携・マルチセクター連携などの、さまざまな形で支援を行なっていきます。

また、多様なコミュニティが抱える社会的課題に寄り添い、その解決や地域活性化への貢献、メセナなど、豊かな生活文化の発展に関わる支援を行なっていきます。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、顧客や社員をはじめとするすべてのステークホルダーからの信頼を失うだけではなく、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

花王は消費財メーカーとして常に暮らしに寄り添う事業

社会貢献活動 102-12,102-15,103-1,103-2

活動を行なってきました。近年、生活者は利便性や満足度の向上だけでなく、よりよい社会に向けて正しい選択と行動をしたい、また周囲の人々やとりまく社会も同様であってほしい、という思いを抱いて生活しています。

花王は、衛生と水、健康、生活の質の向上、ごみ問題など暮らしに身近な社会課題の解決に、これまで培ってきた技術、知見、ネットワークなどを通じて寄与することができ、また、生活者の思いに応える活動を行なうことができると考えます。

活動の結果、世界中の人々のこころ豊かで健康で快適な、持続可能な生活(Kirei Lifestyle)になくてはならない存在になることをめざしています。

貢献するSDGs

方針

花王は、清潔・美・健康の事業領域や、地球環境、多様なコミュニティに関わる社会課題に対し、自社の持つリソースや強みを活かした取り組みを通じて、世界中のすべての生活者が、こころ豊かで持続可能な生活(Kirei Lifestyle)を実現できる社会をめざして、社会貢献活動を行ないます。

花王グループ社会貢献活動のグローバル指針

ビジョン

すべての人に、キレイライフスタイルを。

すべての人々が健康で、サステナブルな暮らしであることを願い、キレイライフスタイルを実現できるようにします。

重点分野

●健康でインクルーシブなライフスタイルの推進

健康で、衛生的な暮らしを実現させながら、偏見がなく、心身ともに自分らしく生きることができる社会へ。すべての人々が機会を拡げ、可能性を高められるように働きかけます。

●サステナブルなライフスタイルの推進

私たちが暮らす地球にやさしい、より良い環境をつくりながら、持続可能に生活していくことができる世界へ。すべての人々が機会を拡げ、可能性を高められるよう働きかけます。

活動方針

- 生活者が自身の行動を変え、周囲の人々にも影響を与えられるよう、情報や知識などを提供します。
- 弱い立場の人々も含め、すべての人々がキレイライフスタイルを送ることができるように、サポートします。
- 社員や生活者が社会的活動に参加する機会を増やすことで、やりがいをもって活動し、社会との結びつきが強くなるように推進します。
- 国や地域、多様なコミュニティが抱える課題に寄り添い、必要とされるように支援します。

社会貢献活動 102-43,103-2,404-2

教育と浸透

世界中の人々のKirei Lifestyle実現のために、花王社員は、モノづくりや啓発活動を通じて、生活者の行動変容を促せるように意識すること、また世界中の多様な生活者、特に脆弱な立場の人々の暮らしに配慮すること、が大切だと考えています。

そのために、広く多様な社会や生活者の状況を学んだり、社会課題解決に取り組む人々と直接交流したり、自ら社会貢献活動に参加するなどして、視野や創造力を広げることが必要だと考えています。イントラネットなどを通じて、社会の実情を学ぶ情報を発信したり、NGOや社会起業家との交流の場、ボランティア活動への参加の機会などを提供しています。

その結果、ボランティアや交流会への参加者は増加傾向にあり、事業においてもコーズマーケティングを検討するケースがみられます。

2020年は、グローバルでのべ1万人を超える社員が、会社が企画する社会貢献プログラムやボランティア活動に参加しました。こういった活動の結果、事業においても、ブランドパーパス実現の取り組みのひとつとしてコーズマーケティングなどを実施する動きもみられています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

世界中の人々がKirei Lifestyleを実現するため、社会貢献活動においては、ステークホルダーとの対話・協働を通じ、複雑化する社会からの要請をより深く理解するとともに、一企業では果たせない、よりインパクトの大きい働きかけができると考えて活動しています。

特に、清潔・衛生・健康の分野では、地域の状況を深く理解し高い専門性を有するユニセフ、UNFPAなどの国連機関やNGOとの連携、環境分野では生活者を巻き込み、行動変容が効果的に行なえるよう、行政や自治体、学校などと連携した取り組みを行なっています。

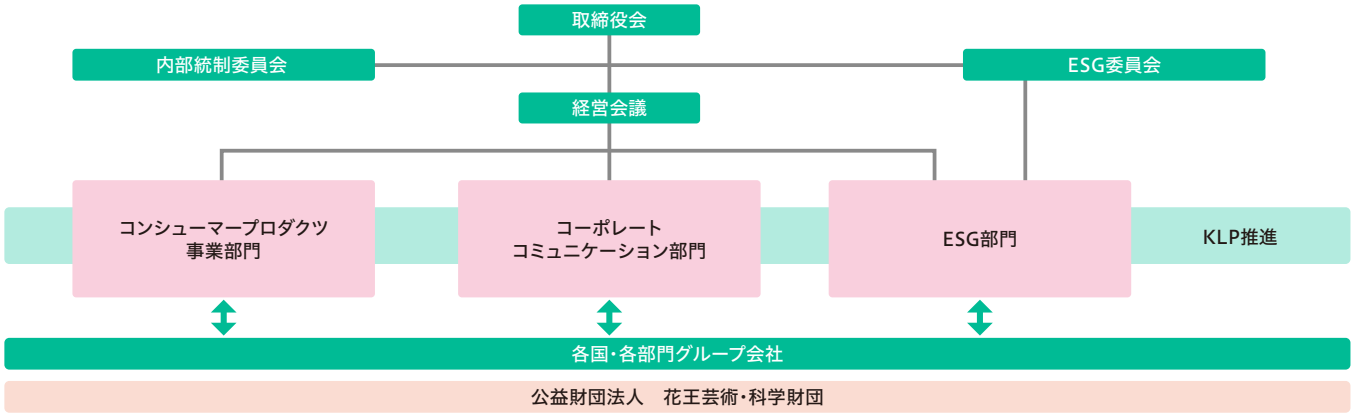
また、社員が社会貢献活動へ参加することは、会社へのロイヤリティを高め、事業の発展と社会へのさらなる貢献に向けた活力となると考えています。

体制

花王のESGビジョンであるKirei Lifestyleの実現のため、ESG部門が中心となり、コーポレートコミュニケーション部門、コンシューマープロダクツ事業部門、その他の関連部門や日本・グローバルの各社と連携して、取り組みを進めています。

国内外各社・事業場には、社会貢献活動調査を年1回実施して活動報告を受け、調査結果を共有しています。

社会貢献活動推進体制



※2020年12月現在

社会貢献活動 103-2,103-3,203-1

中長期目標と実績

中長期目標

清潔・美・健康の事業領域や、地球環境に関わる分野を中心に、事業や製品では直接アプローチできない人々、脆弱な立場の人々も含め、誰もがこころ豊かで快適な生活を実現できるよう貢献していきます。また生活者が、こころ豊かで快適な生活をめざして行動を変えていけるよう支援していきます。

さらに、社員が社会貢献活動に参加し、社会との接点をつくり視野を広げることで、“よきモノづくり”に活かすことをめざします。

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進

清潔・衛生

①ベトナム学校衛生プロジェクト
2016-2020年の5年間で60校35,000人への支援を目標

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上
ハノイ医科大学病院での感染管理・衛生環境の向上をめざした取り組みを実施。2018年からの5年間で他病院へも展開

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発
ハノイ市内小学校で手洗い啓発を実施し、清潔・衛生習慣の定着をはかる

④衛生奨学金制度
大学院修士課程で食品衛生・衛生管理を学ぶベトナムからの留学生1名に奨学金支援。2018年からの6年間で3名を支援

⑤インドネシア月経衛生啓発
2018年から2020年までの3年間で12,000人への啓発と2,500人の行動変容

ダイバーシティ＆インクルージョンの実践

①花王社会起業塾：若手社会起業家を毎年3団体育成支援

②共生社会に向けた理解促進：ボッチャ競技の普及拡大の推進

女性と子ども（次世代）への配慮

①ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発
・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援
・商品や社内プログラムを通じたがん教育プロジェクトへの寄付の実施

②JSEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）：毎年3校最大9名の高校生を支援

サステナブルなライフスタイルの推進

生活者のサステナブルなライフスタイル推進に向けた環境コミュニケーションの実施

社会的活動への社員参加の推進

①グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織「花王ハートポケット倶楽部」の運営

②イントラネット等による社員参加型活動の情報発信強化

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

エシカルな消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することで、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながることを期待しています。

社会的インパクト

衛生・清潔や健康の正しい習慣の普及と定着により、支援するコミュニティの衛生状況の改善や中長期的な生活の質の向上を期待するとともに、キレイラフスタイルプランでコミットメントする、10億人の人々の心豊かな暮らしに貢献します。

また、生活者への環境コミュニケーション・啓発を実施することで、自ら行動を変え、それを周囲に広げていく生活者が増え、サステナブルな社会の実現に向けた原動力になっていくと考えています。

さらに、社会的活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、社会に貢献できるより革新的で価値の高い“よきモノづくり”へ活かされることを期待しています。

社会貢献活動 103-2,103-3,203-1

2020年の実績

実績

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進

清潔・衛生

①ベトナム学校衛生プロジェクト

2016-2020年の5年間の目標である60校35,000人への支援を完了

・ディエンビエン省の幼稚園10校（児童3,710人、教員180人）に啓発セッションを実施

・ディエンビエン省の93村（36,830人）に、手洗い啓発を実施

・ディエンビエン省の126人のコミューン職員、保健員、村のリーダーに家庭での安全な水の入手のためのセッション実施

・ディエンビエン省の4校（児童、教員591人）に給水管を設置

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上

・ハノイ医科大学からの視察を受け入れ日本の感染管理の取り組みを紹介

・2019年に実施したハノイ医科大学病院での手指衛生遵守率向上に向けた介入試験の成果発表会をオンラインで実施

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発

・ハノイ医科大学と協働し、手洗い啓発教材を開発。小学校2校で啓発を実施

④衛生奨学金制度

日本の大学院修士課程で留学生を受け入れ。2018年10月より一人目の奨学生を受け入れ、2020年3月に卒業。2020年4月より二人目の留学生を受け入れ

⑤インドネシア月経衛生啓発

・オフラインや対面式の普及活動、指導者・キャンペーン集会はすべてキャンセル

・代替として、オンライン学習、TV・ラジオ学習、紙資料などを活用した啓発を実施

・「世界月経衛生の日」には、「緊急下のMHM」をテーマにオンラインでのコンテストを実施

⑥手洗い啓発

●日本

・教材提供949件（全体で1,934件）

・出張授業は非実施

●台湾、インドネシア

・約59千人の児童に手洗い啓発実施

⑦初経教育

●日本

・11,694校・約715千人の女子小学生に初経セット配布

・３校に、啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDを送付

●インドネシア、ベトナム、タイ、マレーシア、台湾、香港、中国

・約358千人の女子小中学生に初経セット配布

ダイバーシティ＆インクルージョンの実践

①花王社会起業塾：若手社会起業家を毎年3団体育成支援

・3団体への支援を決定。事業成長のための機会を提供

・社会起業塾キックオフ研修をオンラインで実施。特別講座は社員も126名が参加

・「花王社会起業塾10周年記念講演会」をオンラインで開催卒塾した6名の社会起業家が発表し、社員134名が参加

②共生社会に向けた理解促進：ボッチャ競技の普及拡大の推進

・公式SNSなども活用し社内外への情報発信（社外向け2回、社内向け1回）

・協賛大会の運営や代表選手の強化活動において製品寄付

女性と子ども（次世代）への配慮

①ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援

・10月～11月に、アジア事業展開国の一部とロシアの花王グループ会社9拠点で化粧品カウンセリングコーナーの美容部員や社員が啓発活動を実施

・特設ウェブサイト開設による情報提供

・対象製品購入やクリック募金に応じた寄付

・シンポジウムへの協賛：Global Conference on Breast Health（オンラインにて開催）

・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発

・社員参加型の寄付プログラム：フォト＆イラスト募金

②JSEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）

・研究交流会をオンライン開催。85人の社員と受賞3校の学生など103人が参加（8月）

・JSEC2020に特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を3校6人の高校生に贈呈（12月）

社会貢献活動 103-2,103-3

サステナブルなライフスタイルの推進

生活者のサステナブルなライフスタイル推進に向けた環境コミュニケーションの実施

①第11回花王国際こども環境絵画コンテストの実施（12,884点）、動画コンテンツ制作とオンライン公開、入賞作品の展示活動（社内外約30か所）

②未来洗浄研究会セミナー開催（9月、12月）

社会的活動への社員参加の推進

①グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織「花王ハートポケット倶楽部」の運営

・会員数3,376名（2020年12月20日現在）

・寄付件数43件／寄付金額9,142,100円

・活動レポート4,020部（社内向け活動報告書、年1回発行）

②イントラネット等による社員参加型活動の情報発信強化

・2020年度64件

・社員参加型のイベント企画：東日本大震災の被災地ボランティア、花王社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、事業場地域での地域貢献活動など

社会貢献活動費実績

花王の社会貢献活動を把握するため、国内外の関係会社、事業場、関連部門に、活動調査を実施。2020年の社会貢献活動費は、花王全体で10億6,100万円（寄付金2億1,400万円、活動費8億4,700万円）となりました。

➡サステナビリティサイト＞Corporate Citizenship Activities
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/

実績に対する考察

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対面で実施する活動やイベントは、ほとんどが中止や延期を余儀なくされました。しかし、実施時期を延期・延長したり、オンラインでの実施に切り替えるなどの対応を行ない、生活者への啓発活動や支援が継続して行なえるよう努めました。活動の場がリアルからオンラインにシフトしたことは、支援のあり方を再考する機会ともなり、今後、活動の選択肢や可能性を広げ、活かしていく予定です。

具体的な取り組み

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進：清潔・衛生

花王・ベトナム衛生プログラム

QOLの向上　清潔で美しくすこやかな習慣

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するため、「ベトナム衛生プログラム」を実施しています。このプログラムは、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「楽しい手洗い教室」「学校衛生プロジェクト」の4つの取り組みで構成されています。

衛生管理リーダー育成プログラム

病院内の感染管理・衛生環境の向上に向けた取り組みです。2020年は、前年に引き続き、ベトナムでのパートナーであるハノイ医科大学から関係者を日本に招き、日本の感染管理について紹介し、感染症専門家との意見交換の場を設けました。また、ハノイ医科大学病院で2019年に実施した手指衛生遵守率向上に向けた介入試験の成果発表会を実施しました。成果発表会には、ベトナムの保健行政関係者や病院の医療従事者および学生が参加し、日本からは感染症の専門家もオンラインで参加しました。

介入試験は、スタッフの手指衛生の実態を確認するモニタリングや、スタッフへの研修実施などにより意識啓発を図るもので、来院患者を含めた地域への啓発にもつながりました。実際に、手指衛生遵守率に改善が見られ、これらの成果を、成果発表会を通じて広く共有しました。

2021年には、こうした取り組みを引き続き強化しながら、感染管理の取り組みをさらに進めていく予定です。

衛生奨学金制度

ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していくことをめざしています。神奈川県立保健福祉大学と協力し、大学内に「花王衛生奨学基金」を設け、留学生に奨学金を提供しています。

2020年3月には、一人目の留学生が神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程を卒業しました。修士論文は、日本とベトナムの食品衛生管理についての比較検討と病院厨房の菌の測定を通じた考察を行なったもので、病院での調査例が少ないなか、貴重な研究となりました。

2020年4月には、二人目となる留学生が来日し、同じく神奈川保健福祉大学大学院に入学しています。

楽しい手洗い教室

ハノイ医科大学と協働し、2020年より小学生向けの手洗い啓発活動を行なっています。

2020年は9月と10月に、ハノイ市内の小学校2校で、学校の手洗い設備設置状況を確認したり、児童の手洗いの様子を観察したり、学校関係者や児童へのアンケートを通じて、手洗いの状況を把握するベースライン調査を実施しました。

並行して、ローカライズされたわかりやすい教材も開発し、11月より、子どもたちへの手洗い指導も進めています。

2021年には、活動の効果を検証し、ハノイ市内の他の小学校への展開も進める予定です。啓発活動をより広く展開することで、将来を担う子どもたちのさらなる衛生意識の向上をめざします。

ユニセフ「学校衛生プロジェクト」を支援

経済格差の大きいベトナムでは、特に山間部や農村部、少数民族が多い地域の衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。

花王は、2016年から、国連児童基金（ユニセフ）による学

社会貢献活動 203-1

校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

ベトナム南部・メコン川流域のアンザン省での成果を受け、2018年から少数民族が多い北部山岳地域、ディエンビエン省に支援を拡大しました。

2020年は、コミュニティや学校における衛生支援活動を実施したディエンビエン省の36の村で屋外排泄根絶が宣言されました。

その他にも、省内3県にある10の幼稚園に通う3,710人の児童たちと教員180人がイベントを通じて石けんを使った手洗いに関する知識とスキルを向上させました。また、93の村において250回のコミュニティ啓発セッションが実施されました。36,830人が新型コロナウイルスに関連した啓発を受け、手洗いの重要性や衛生的なトイレの管理等の知識の向上につながりました。また省のうち6つの自治体の職員126名や保健従事者、村長らに、安全な水処理と貯蔵に関する知識とスキルを強化するセッションが実施されました。

2021年も、学校やコミュニティ主導の衛生環境改善や衛生習慣の促進を進めていきます。

アンザン省の子どもたちの手洗いの様子　©UNICEF Viet Nam

社会貢献活動 203-1

月経教育・月経衛生環境向上への貢献

QOLの向上　清潔で美しくすこやかな習慣

日本の女子小中学生に向けた初経教育

花王は、1978年の生理用品の発売以来、40年以上にわたって、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

日本では、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れた初経教育セットを小学校に無償で提供しており、2017年からは公益財団法人日本学校保健会と連携し全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。

2020年は、11,694校へ配布しました。また、2018年に改訂した啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDは2019年に全国の視覚支援学校と点字図書館に配布しましたが、ご要望を受け2020年は3校に新たに送付しました。

インドネシアの中学生に向けた月経衛生教育

2018年よりインドネシアにおいて、国連児童基金（ユニセフ）による「月経衛生管理プロジェクト」の支援を行なっています。

インドネシアでは、月経の正しい知識が十分に普及しておらず、4人に1人が初経までに月経の知識がなく、さまざまな迷信や偏見も依然として存在しています。また、学校における教育や衛生環境が十分に整っていないため、6人に1人が月経時に少なくとも1日は学校を休むという現実があり、女子生徒の出席率低下の一因になっています。

支援最終年となる2020年は、2019年に完成した中学生向けの教育冊子を活用した授業展開を計画していましたが、コロナ禍で学校の休校が10月まで続き、予定通りに完了することができませんでした。7月からは、オンライン授業のしくみに変更しましたが、すべての生徒がインターネットや携帯電話にアクセスできるわけではなく、特に農村部の学生は接続環境が悪く、学習の大きな障害となり、活動の進行にも遅れをきたしました。

2020年までの3年間で公立中学校40校にて男子生徒を含む12,000人以上の生徒へ授業を行ない、2,500人以上の行動変容を計画していましたが、今後半年間活動期間を延長し、目標を達成する予定です。

ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

花王は、2019年2月より、国連人口基金（UNFPA）とパートナーシップを組み、ウガンダで低価格な国産生理用ナプキンの製造・販売をめざす若手社会起業家が立ち上げた企業「エコスマート」を支援しています。

アフリカには、貧困により生理用ナプキンを購入できず、使い古した布の切れ端や植物の葉などで代用している女性が多くいます。その結果、深刻な感染症にかかるケースが見られます。また、生理用ナプキンを使用できないために生じる衣類の汚れを気にして学校を休み、授業についていけなくなって退学することも少なくありません。

花王は、支援によりウガンダの女性が継続的に生理用ナプキンを使用できるようになり、月経期間をより衛生的で快適に過ごせるようになることを期待しています。月経期間中も休まず学校に通い、男女ともに等しく学べる環境は、社会全体のさらなる発展に寄与すると考えています。

2020年、エコスマートは、前年から行なってきた花王との情報交換や技術アドバイス、花王工場の視察などを受け、目標としていた、生産体制の整備、テスト用サンプル完成、政府認証の取得などを完了しました。これらのプロセスを通じ、チームメンバーや地元関連企業の能力開発、地域の人々の雇用にも貢献しています。

今後は、品質管理体制の整備や使用調査などを経て、現地向け生理用ナプキンの発売をめざし、より多くのウガンダの女性の清潔と健康に貢献していく予定です。

地元の学生の啓発を行なうエコスマートメンバー

社会貢献活動 203-1

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進：ダイバーシティ＆インクルージョンの実践

花王社会起業塾　QOLの向上

花王は、持続可能なよりよい社会を次世代に引き継ぎたいと考え、2010年より、社会課題をビジネスの手法で解決しようとする若手社会起業家の育成を支援する「花王社会起業塾」を実施しています。

「これからの新しい生活文化をつくる」をテーマに、生活者に寄り添い、よりよい暮らしに向けた基盤づくりに取り組む社会起業家を支援しており、約8カ月にわたり、専門家からのアドバイスを受ける機会や合同研修、人的交流・ネットワークの場を提供し、事業の軸をつくり、成長を加速させる支援を行なっています。なお、運営は社会起業塾イニシアティブ（認定特定非営利活動法人ETIC.〈エティック〉と複数企業※が連携して社会起業家を育成・支援するプラットフォーム）が行なっています。2020年度は以下の3組を支援しました。（これまでに32組を支援）

・伊澤貴大さん・絵理子さん（一般社団法人もも 共同創設者）
「学校が合わなくても自分らしく生きられる社会へ」
・伴元裕さん（特定非営利活動法人Compassion　代表理事）
「勝利至上主義から成長至上主義へ！成長マインドセットが育まれるスポーツ環境をつくりたい」
・吉田優子さん（株式会社アッテミー 代表取締役）
「18歳からの働き方改革！高校生向けインターンシップ申込サイト」

よりよい社会をつくる担い手を育てることに加え、近年は社会起業家たちと社員の交流活動に注力しています。社会課題解決に向けた熱い思いや事業戦略の立て方など、さまざまな気づきや学びを得る場を社員に開いてきました。

2020年度は、まず、支援起業家のはじめての研修である「社会起業塾キックオフ研修」の特別講座を社員がオブザーブ参加できるオンライン企画として9月24日に開催し、花王社員126名が参加しました。

また、2020年度はプログラム実施10周年という節目にあたることを記念し、11月10日、「花王社会起業塾10周年記念講演会」をオンラインで開催しました。これまで花王が支援した社会起業家の中で、今も事業を継続し、社会にインパクトを与えている6名の卒塾生にご登壇いただきました。当日は全国からさまざまな部門の社員134名（過去最高）が参加し、起業家たちが取り組むそれぞれの社会課題と、その解決のための事業について講演を聴きました。卒塾後、起業家たちが事業をさらに発展させ、社会にインパクトを与えている姿に、社員からは、「仕事に対する姿勢に感銘を受け、学ぶことがたくさんあった」「皆さまのエネルギーに勇気づけられた。会社にいても起業家マインドをもって活動したい」などの声をいただきました。

2020年度の塾の運営や社内イベントはいずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの実施となりました。その結果、通常よりも広く全国各地の社会起業家から応募があったり、社員イベントにおいても全国から多くの方に参加していただくことができました。

また10年間を振り返り、このプログラムの社会的インパクト評価を行ない、価値を可視化する取り組みもスタートしました。これからも社会や社員にインパクトを与える活動を進めていきます。

※ 2020年度のオフィシャルパートナーはNEC、花王。プログラムパートナーは電通

「10周年記念講演会」に参加した社会起業家たちと事務局

社会貢献活動 417-1

一般社団法人 日本ボッチャ協会に協賛

QOLの向上

2019年6月に開始した(一社)日本ボッチャ協会とのゴールドパートナー契約を2020年も継続し、障がい者スポーツを通じた共生社会の理解浸透に向けた取り組みとして、社内外に向けた競技理念の理解や競技の普及・振興のための啓発活動を行ないました。

2020年は、社内外への啓発活動や協賛大会の中止と無観客での開催など、新型コロナウイルス感染症拡大による影響がある中で、日本ボッチャ協会の活動と連動した情報発信に主軸を置き、公式SNSなども活用して社内外への情報発信を行ないました(社外向け2回、社内向け1回)。また、協賛大会の運営や代表選手の強化活動において、製品を通じたサポートを行ないました。

2021年も引き続き、製品を通じたサポートとともに、定期的な情報発信を行ない、アフターコロナの啓発活動への参加促進につなげていきます。

感染拡大防止に配慮し無観客で開催された協賛大会「ボッチャ東京カップ2021」

情報のバリアフリー

ユニバーサル プロダクト デザイン

花王は、日常生活に欠かせない製品を提供する企業として、社会に暮らすすべての人々が、分け隔てなく快適で豊かな日常生活を営んでいくことができるようにバリアフリーを推進し、その理解をめざす活動を行なっています。

特に情報化が進む中で取り残されがちな、視覚障がい者や高齢者に向けた情報のバリアフリーに取り組み、製品の点字シールの無償提供や生活情報を音声化して提供する取り組みを行なっています。

また、さまざまな障がいのある方々の生活の不便さを伝え、理解を図る内容のバリアフリービデオを学校等へ寄贈し、総合学習の教材として活用されています。

福祉施設への寄贈では、社会福祉協議会と連携し、選定した団体や社会福祉施設と民間が運営する滞在型施設に花王製品を寄贈するにあたり、コロナ禍で必要とされる除菌製品を中心にご提供し、お役立ていただいています。

2020年は、初経教育の支援活動の一環として、情報が不足しがちな視覚に不自由のある子どもたちやその家族、教育関係者の希望者に向けて、啓発用小冊子「からだのノート　おとなになるということ」の音訳CDをご提供しました。

また、点字シール(家庭品用／化粧品用)の無償提供55件、バリアフリービデオの寄贈3件、貸出7件、福祉施設への製品寄贈を2回実施しました。さらに、日本点字図書館が発行する点字・録音による生活情報誌「ホームライフ」11月号に、生活情報の提供とともに、社員ボランティア１名が音声情報の収録に協力しました。

2021年以降も活動を継続していきます。

点字シール(家庭品用)

「からだのノート　おとなになるということ」音訳CD

社会貢献活動 102-43,203-1

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進：女性と子ども（次世代）への配慮

ピンクリボンキャンペーンを通じ、がん教育を支援 QOLの向上

2007年から、毎年10月、11月の2カ月間、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。期間中は「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見の啓発のため、国内外でさまざまな取り組みを展開しています。

日本での主な取り組みの一つとして、認定NPO法人乳房健康研究会主催の「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」を支援しています。中学校・高校でのがん教育を実施するもので、日本人の2人に1人ががんにかかるとされる中、生徒たちの健康意識の向上や、その保護者世代への影響も期待されています。

2020年はこのほかに、化粧品ブランド「KANEBO」にて対象商品の売り上げから一定額を「がん教育プロジェクト」に寄付しました。2013年から継続している取り組みで、毎年対象商品を設定し、乳がんの啓発に関わる活動を支援しています。また、生理用品ブランド「ロリエ」では女性の健康を応援するキャンペーンを実施し、商品やブランドサイトを通じた情報発信のほか、クリック募金による寄付を実施。こちらも「がん教育プロジェクト」のほか、子宮頸がんの啓発を行なう活動に寄付しました。

また、社内でも社員参加型の寄付プログラムや、特例子会社花王ピオニー（株）とコラボレーションしたピンクリボンキャンペーンビジュアルの制作などを実施し、積極的な啓発活動を行ないました。

その他、海外を含めた一部化粧品店頭やオンラインメディアを活用した啓発活動、乳がんに関連したシンポジウムへの協賛など、少しでも多くの方にメッセージを届けるために積極的に活動しています。

➡QOL の向上：ピンクリボン活動を通じて女性の活躍を支援
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=46
➡受容性と多様性のある職場：障がいへの理解と雇用の促進＞特例子会社での取り組み＞コロナ禍での在宅勤務の試み：在宅勤務で製作した折り花を社内キャンペーンで活用
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=191

花王ピオニーと制作したキャンペーンパネルを社内展示

ピンクリボンアドバイザーによるがん教育授業

社会貢献活動 413-1

教材提供による学校教育支援

清潔で美しくすこやかな習慣　サステナブルなライフスタイルの推進

子どもたちが将来にわたって快適な暮らしを自分らしく送り、サステナブルな社会をともに実現できるように、「自分のことを自分でできるようになる」「広く社会のことに関心を持ち、自分たちにできることにチャレンジする」の2つの視点でプログラムを用意し、さまざまな次世代育成活動に取り組んでいます。

次世代育成の一環として、これまで幼稚園や保育園、小学校にて長年実施してきた出張授業は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、子どもたちの安全を最優先に考え、今年度は中止することとなりました。

多くの学校で、先生ご自身で授業を行なっていただけるよう、約1,100校に「手洗い講座」や「おそうじ講座」の教材を無償で提供。あわせて、全国約2万の小学校へ「手洗いポスター」をお届けするとともに、休校で登校できない児童が在宅でも取り組めるよう、手洗いやおそうじの動画コンテンツを自社ウェブサイトにて公開しました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、新学期から、児童に新しい衛生習慣を身につけてもらいたいとの願いから、新しい教材の開発に着手しました。（2021年春から提供）

あわせて、課題解決に取り組むアクティブラーニング型のプログラムとして、小学生向けに「ごみゼロチャレンジ」、中高生向けに「課題探求講座SWITCH」の検証授業を実施。オンラインでの配信授業にも取り組みました。

「手洗い講座」の教材を活用した先生による授業

「手洗い講座」の教材で、手の洗い残しを確認する児童

2020年実績

教材提供

種類	開催場所／対象	実績
手洗い講座「手洗いの時間」	小学校低学年	949校
おそうじ講座「お家のおしごと」	小学校低学年	176校
いっしょにエコ日記	小学校4年生	570校
環境のことを考えた快適なくらし	中学校技術・家庭科	111校
よりよい衣生活と環境の創造をめざして	高等学校家庭科	128校
計		1,934校

出張授業

実施なし

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童の安全を考慮

社会貢献活動 413-1

工場・ミュージアム見学を通じた学校教育支援

清潔で美しくすこやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

生活に身近な商品を生産、提供する企業として、モノづくりの工夫や品質、安全・安心のための努力、環境への配慮を学んでもらうため、ミュージアムや工場見学を通じた学校教育の支援を行なっています。

特に、小学校の社会科単元(3年:働く人と私たちの暮らし、5年:私たちの生活と工業生産)に連動したプログラムを開発し、事前・事後の学習も含めた教材の提供、工場見学を含む、学習型の社会科見学プログラムを実施しています。プログラムを通して、子どもたちが社会との結びつきに気づき、自ら考える力を育むことをめざしています。

2020年は、国内9工場と2ミュージアムで7,952人の見学者を受け入れた中、61校4,291人の小学生が社会科見学プログラムを受講、また、社会科見学プログラム以外では、花王ミュージアムを見学した小学生(61名)を含む学生1,236人が見学しました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、3月からすべての工場・ミュージアムで見学を休止しましたが、花王エコラボミュージアムでは4月より、小学校社会科見学用に教材提供を実施し、30校の学校にお届けしました。また、9月からオンライン配信による見学プログラムを実施し、小学校12校、中学校1校にライブ配信を行ない918名が参加しました。

ロジスティクスを通じた安全啓発

サステナブルなライフスタイルの推進

花王ロジスティクス(株)では、トラックでの配送業務を行なっていることから、交通安全には日ごろから細心の注意を払うとともに、交通安全に関連するイベントも行なっています。近年は全国7拠点の地域内にある小学校の児童を対象に、子どもの命を守る地域貢献活動として「こども交通安全教室」を継続して実施しています。

また、川崎ロジスティクスセンターでは、前年に続き2020年も、区内の全小学校20校の新1年生を対象に行なわれる、区主催「交通安全絵のコンクール」の受賞上位30作品を配送用トラックにラッピングし、配送業務を行ないながらの交通安全の啓発を行ないました。交通事故による死傷者半減はSDGsの目標にも設定されていますが、これらの活動は、ドライバーの意識向上や、ラッピングトラックを見た配送地域の方々の交通安全への関心向上にも役立っています。

こども交通安全教室

令和2年ラッピングトラック

社会貢献活動

JSEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術から生まれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。

その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「JSEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）」（主催：朝日新聞社、テレビ朝日）に特別協賛しています。

毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しており、賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文の審査をはじめ、最終審査会では高校生のプレゼンテーションを聞いて審査を行ないます。

「JSEC2020」の最終審査会は、2020年12月12日、13日にオンラインを活用して実施され、花王賞として、静岡理工科大学静岡北高等学校が、花王特別奨励賞としてノートルダム清心学園清心女子高等学校、甲南高等学校が受賞しました。

JSECの上位入賞者は、2021年にオンラインを活用して行なわれる国際学生科学技術フェア（ISEF）への出場資格が与えられ、花王賞を受賞した静岡理工科大学静岡北高等学校の谷本里音さん、田中響さん、望月凌さんが出場する予定です。

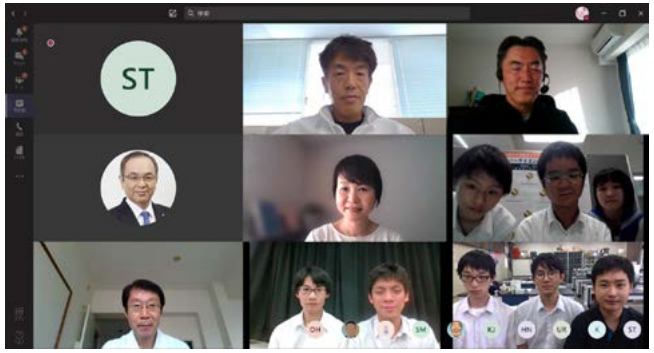
その他、受賞校の皆さまと花王の研究員との交流を図る企画を開催し、高校生のキャリア教育支援にもつなげています。

・花王賞：
「茶粕と鉄イオンを用いた光化学的水素製造法」静岡理工科大学静岡北高等学校（谷本里音さん、田中響さん、望月凌さん）

・花王特別奨励賞：
「植物の吸水リズムを生み出す原因とは」ノートルダム清心学園清心女子高等学校（石原亜侑美さん、前田彩花さん）
「自然言語処理と機械学習を用いたタンパク質の高発現塩基配列の創製」甲南高等学校（南慧さん）

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により「JSEC2019」の花王賞・花王特別奨励賞の受賞校の皆さまと、施設見学や研究員との交流を図る「スタディツアー」が実施できなかったため、2020年8月6日に「研究交流会」をオンラインで開催し、85人の社員と受賞した3校の皆さま、朝日新聞社など、総勢103人が参加しました。当日は、花王の研究開発についての紹介や各受賞校の皆さまによる研究内容の発表がありました。花王の審査員や参加者との質疑応答や、受賞校同士の意見・情報交換が積極的に行なわれ、非常に活発な交流会となりました。

花王賞の表彰



「研究交流会」に参加された各受賞校の皆さまと花王の審査委員等

社会貢献活動

サステナブルなライフスタイルの推進

花王国際こども環境絵画コンテスト

サステナブルなライフスタイルの推進

花王は、世界の子どもたちが身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考えて表現した作品とその思いが、世界中の人々の心を動かし、さらにそのライフスタイルを変えるきっかけとなることを願って、2010年から「花王国際こども環境絵画コンテスト」を実施しています。

第11回コンテストの実施

2020年は、コロナ禍にもかかわらず、世界中の子どもたちから、12,884点（日本1,302点、アジア・太平洋11,297点、米州79点、欧州95点、中東111点）の応募がありました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、10月に、社内外審査員による最終審査が行なわれ、“いっしょにeco”地球大賞1点、“いっしょにeco”花王賞8点、優秀賞〈審査員推薦作品〉7点、優秀賞16点が決まりました。コロナ禍のため、上位入賞者の日本招待と表彰式は中止し、受賞者には郵送にて賞品をお贈りしました。花王タイ・花王シンガポール他、一部のグループ会社事務局では、各国内にて、状況が許す範囲で、直接授与を行なったところもありました。

最終審査

第11回”いっしょにeco”地球大賞作品
Liang-En Yu さん（8歳）作
作品タイトル：未来の色

第11回上位入賞者の皆さん

絵画を活用した環境啓発のためのオンラインコンテンツの公開

花王国際こども環境絵画コンテストの大きな特長は、絵画とともに作者の子どもたちの思いを受け取っていることです。この思いを多くの人達に伝えることをめざして動画を制作し、オンラインで公開しました。5月には、「第10回花王国際こども環境絵画コンテスト」（日・英）を公開、10,000回を超える視聴がありました（12月末時点）。また、12月には「花王国際こども環境絵画コンテスト10周年「絵に込められた思い」」（日・英）を公開しました。

➡第10回花王国際こども環境絵画コンテスト（日本語）
www.youtube.com/watch?v=5DesITr87W0
➡花王国際こども環境絵画コンテスト10周年「絵に込められた思い」（日本語）
www.youtube.com/watch?v=-IrhW51qTgE

NPO・行政等と協働した絵画展示活動

世界の子どもたちの絵とそこに込められた思いやメッセージを多くの人に伝えるために、これまでの入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

2020年はコロナ禍のため、社内外の多くの場所で、絵画展示を控えることとなりました。日本の全10工場では、上位入賞作品の常設展示を行ないましたが、工場見学休止のため、来場者は少ない状況でした。

NPO法人ビーグッドカフェを事務局として、日本全国の行政が運営する環境関連施設やNGO／NPO、教育施設

などに絵画を無料で貸し出す活動が4年目を迎え、2020年の貸出先は、のべ11施設・団体、来場者数の合計は約13,000人でした。

さらに、花王（中国）投資や花王（台湾）でも、各地域での環境啓発活動の中で、絵画展示活動に取り組みました。

未来洗浄研究会

サステナブルなライフスタイルの推進

2018年に、花王とフューチャーアース、東京大学 国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構（現：東京大学未来ビジョン研究センター）が設立した「未来洗浄研究会」は、「世界中の人々がサステナブルに清潔に快適に暮らせる社会」をめざし、事業領域や学問領域の枠を越え、産学公民等のさまざまな知恵を集めて、未来の洗浄について議論や提案をしています。

2020年9月には、セミナー「サステナブルな洗濯を考える（2）～水とエネルギーの視点から～」を、また、12月には、セミナー「サステナブルな洗濯を考える（3）～衣類や繊維の視点から～」を、オンラインにて開催しました。両回とも、話題提供として、アカデミアと企業から1題ずつの講演と、グループディスカッションを行ない、洗濯をいろいろな角度から捉えて議論しました。参加者は、企業、大学・研究関係者、環境団体や主婦などで、洗濯の環境課題を生活者視点で捉えながら、アイデアを出していく議論は、参加者からも好評を得ました。

また、未来洗浄研究会のウェブサイトでは、2020年よりブログページを公開し、サステナブルな洗濯に関してさまざまな視点から考える記事を掲載しました。2020年は、概ね月2回、計23報を公開しました。

中国節水キャンペーン「清潔美麗青春行」

サステナブルなライフスタイルの推進

花王（中国）投資は、中国生態環境部宣伝教育センターと共催で、2012年から「中国清潔・節水」活動を実施しています。2015年からは活動の一環として、大学生の環境保護コンテストも開始し、中国国内における一般市民および大学生の節水意識を喚起する活動として、展開してきました。

2020年は、コロナの影響もあり、例年とは時期を変えて9月から12月までの4カ月間での実施となりましたが、「節水」だけでなく、「生物多様性、プラスチック削減、低炭素、リサイクル」など、さらにいっそう広い環境視点での活動に拡大しました。

各地で大学生を中心にした活動を展開し、約4カ月間で、中国全土の21の省や市にある67の大学から100件以上の活動提案を応募いただきました。

その中から19のプロジェクトを選出して、実行支援を行ないました。全国の大学生たちは、自ら企画した活動を実践することによって積極的に環境保護に取り組み、さらに、周りの人々の環境意識を向上させるためにさまざまな活動を展開していました。

12月には、北京生態環境部宣伝教育センターで閉幕式が行なわれ、各地の大学生代表はリモートで参加し、表彰を受けました。

北京で開催された閉幕式

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト

脱炭素

タイ北部における急激な森林減少・破壊と、それが引き起こす水害・煙害等の環境問題の改善をめざし、花王は公益財団法人オイスカ、オイスカタイランドとの協働で、2012年からタイ北部チェンライ県チェンコン郡で、環境保全プロジェクトを実施しています。2012年からの5年間で、目標としていた35haに42,500本の植林を完了しました。活動を通じて、地域の人々の環境保全に対する意識が高まり、森を適切に管理し、生活の基盤づくりに活かそうという機運が生まれたことから、2019年4月より、第2期の支援を開始しました。

社会貢献活動 304-3

第1期で整備した植林地では、森の管理に加えて作物の栽培に向けた検討が実施されました。当初検討した作物の中で土地に適さないものなどを省き、食生活に活かされる樹種を植えることで森の価値を高めて、住民の森への関わりを深めながら管理を進めています。

第2期の新たな植林地は、森が放置されて多くの下草に覆われていたため、まずは住民が中心となり植林地を整備しました。2020年8月には植樹式が行なわれ、今後住民を中心とした豊かな森づくりの活動を進めていきます。

第2期フィールドでの植樹祭の様子

花王・教員フェローシップ

花王は、2004年から2019年まで認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンとともに、「花王・教員フェローシップ」を実施しました。これは小学校・中学校の教員を対象にしたプログラムで、夏休み期間に1～2週間程度、生物多様性保全に向けた海外の野外調査研究にボランティアとして参加する機会を提供するもので、参加した教員の方々に、自らの体験や感動を学校や地域での環境教育の現場で活かしてもらうことを目的として実施してきました。

2019年で活動を終了しましたが、実施した全17回の成果を広く発信することを目的に、参加者の声などを盛り込んだ活動をまとめた特設サイトをアースウォッチ・ジャパンとともに開設しました。全参加者の報告書を閲覧できるほか、参加者への個別インタビューや、調査後に制作されたオリジナルの指導用資料なども掲載し、プログラムの成果を広く社会に還元することを目的としています。

➡花王・教員フェローシップ 生物多様性支援プログラム
www.earthwatch.jp/kaofellow/

花王・みんなの森づくり活動 脱炭素

緑豊かな環境づくりと、その環境を次世代に引き継ぐことを目的に、公益財団法人都市緑化機構と連携し、環境を守り育てる人づくりのための助成プログラムを実施しています。全国から森づくりや環境教育などに取り組むNGO／NPO・市民団体を公募し、毎年20件程度を選定、3年間の継続助成を行なっています。また、環境保全活動を通じて、現代の地域社会が抱えるさまざまな課題解決への貢献や、地域のよりよいコミュニティ形成にも寄与しています。

2020年は、2019年に応募した団体から、20団体を選定して助成を行ないました。当初5月に予定されていた目録贈呈式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

2000年から2020年までに支援した団体数は累計で499件となり、これは都道府県が把握する森づくり団体数約3,000の約16%に相当します。

支援団体の活動の様子

社会貢献活動

社会的活動への社員参加の推進

花王ハートポケット倶楽部

2004年に開始した花王社員による社会的支援を目的としたクラブ組織です。趣旨に賛同する社員が会員となり、毎月の給与から1口50～100円までの範囲で任意の金額を積み立て、NGO／NPO・市民団体への寄付、社員が参加するボランティア活動の実施に関わる支援、広域災害発生時の緊急支援などに役立てています。寄付先や基金の使途の決定は、会員の代表である15名の運営委員で構成される運営委員会で決定する仕組みになっています。よりよい社会づくりをめざし、社会課題解決に取り組む活動へ支援を行なうとともに、社員に対しては社会参加の機会を提供し、社会的感度を高めることに寄与しています。

2020年は、コロナ禍での団体の活動状況をヒアリングし、社内へ情報を共有しました。ヒアリング対象団体のうち3団体とはオンラインを活用して運営委員と寄付先団体の意見交換の場を設けるなど、社員を巻き込んだ活動を実施し、社内向け広報誌（イントラネット版）「ハートポケット倶楽部新聞」（年5回発行）で紹介しました。

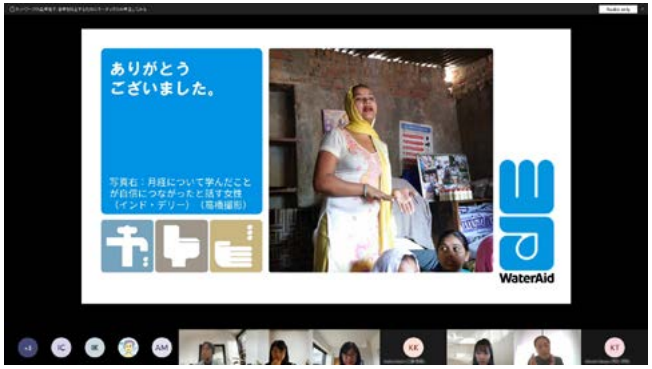
また、事業場地域の市民活動を応援する「地域助成」を栃木県、和歌山県、茨城県で実施し、計15団体へ助成しました。茨城における地域助成では、目録贈呈式と団体との情報交換を水戸市にて実施しました。

その他、より規模の大きい活動を応援する「みらいポケット基金」を実施し、助成先の選考にあたっては運営委員による書類審査と団体によるプレゼンテーションのオンライン選考を実施し、3団体を決定しました。

毎年社員がボランティアとして参加する「ホワイトリボンラン」「絵本を届ける運動」「クリスマスカードプロジェクト」では、感染リスクに留意しながら、計329名の社員がボランティア活動に参加しました。

今後も引き続き、会員増大と社員の社会参加のためのきっかけづくりを行なっていきます。

- 会員数3,376名（2020年12月20日現在）
- 寄付件数43件／寄付金額9,142,100円
- 活動レポート4,020部（社内向け活動報告書、年1回発行）



オンラインで「みらいポケット基金」の審査を実施

「花王ハートポケット倶楽部新聞」に寄付先団体の活動の内容や意見交換について掲載

社会貢献活動

花王ファミリーコンサート

花王では、事業場周辺地域の皆さまに質の高い音楽に触れる機会を提供し音楽や芸術を楽しむ心を育んでいただきたいとの思いから、2002年より、「花王ファミリーコンサート」を開催しています。

このコンサートは、地域貢献と文化支援、社会支援を融合した花王ならではのプログラムで、企画から当日の会場整理、会場アナウンス、切符切り等の運営をすべて社員が行なっています。

2002年からの累計公演数は44公演、累計来場者数は41,327人となります。また、コンサートの収益金は全額、地域の音楽教育に役立てていただいています。

2020年は、4月12日に茨城県神栖市、4月19日に栃木県益子町、9月6日に山形県酒田市の3カ所において、開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、公演はやむなく中止となりました。出演予定だったアーティストに対しては、マネジメント企業を通じ資金面でのサポートを行ないました。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなか、アーティストが活躍する場は急減し、その生活維持が新たな社会問題となっています。花王では引き続き、コロナにより影響を受けた芸術文化活動への支援を継続していきます。

愛媛県西条市では、花王からの寄付金を2020年度の音楽教育の現場で楽器購入などに活用

社会貢献活動

メセナ支援

芸術文化活動支援

優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援しています。

交響楽団への賛助や音楽・舞台芸術公演、美術展への協賛を行なうなど、あらゆる世代の人々に芸術に親しんでいただき、次世代に優れた芸術文化活動が継承されるよう、積極的に支援を行なっています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために展覧会や公演が中止や延期となりましたが、感染症対策を確認した上で、継続して協賛を行ない、再開時には公式SNSなどを通じた情報発信を行なうなど開催をサポートしました。

音楽分野では、NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団への賛助、NHK交響楽団ベートーヴェン「第九」公演の協賛、新国立劇場2019/2020シーズンと2020/2021シーズンの特別支援企業グループ協賛を行なっています。

また、美術分野においては、読売新聞社主催の「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」(東京と大阪で開催)と日本経済新聞社主催の「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション展」への協賛を行ないました。

若手芸術家育成支援

豊かな生活文化の実現に貢献するために、次世代を担う芸術家育成の活動を支援しています。

東京音楽コンクールの主催

2003年からは、東京音楽コンクール(共催:東京文化会館・読売新聞社・東京都)を主催し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成の活動を支援しています。各部門優勝者がオーケストラと共演する優勝者コンサートを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会の提供など、東京文化会館が5年間バックアップを行なっています。

第18回東京音楽コンクール 弦楽部門表彰式
写真:堀田力丸/写真提供:東京文化会館

K-BALLET YOUTH公演の特別協賛

2013年からは、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニーK-BALLET YOUTHの公演に特別協賛しています。これは、次世代の才能あるダンサーの発掘とプロフェッショナル・バレエカンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、次世代の芸術家育成に取り組むK-BALLET YOUTHの趣旨に賛同するものです。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、国内外のコンクールが中止を発表する中、「第18回東京音楽コンクール」は予定通り4月に募集受付を開始し、感染リスクに留意しながら無事開催されました。ピアノ・弦楽・金管の3部門において、435人の応募者の中から15人の入賞者が決定しました。また、2020年は、過去の入賞者の中から7人が国内外のコンクールに上位入賞したり、出場を予定するなどのすばらしい活躍を見せています。

K-BALLET YOUTHが2021年に開催予定だった第5回特別記念公演「ドン・キホーテ」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、2022年に延期されることになりました。K-BALLET YOUTHは、このような影響を受ける若いダンサーに対して、芸術の学びの場を企画していく年間特別プロジェクトを、2020年8月から2021年5月まで実施しています。長期的な次世代育成のカリキュラムの確立も見据えたこの取り組みに花王は賛同し、あわせて特別協賛しています。

社会貢献活動

公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、豊かな生活を営んでいく上で必要不可欠な芸術文化と科学技術の振興および発展向上とともに、文理融合領域の研究発展にも寄与することをめざす、芸術と科学の支援を併せ持つユニークな財団です。

1990年に、花王株式会社の創立100周年を記念した拠出を受け設立され、「助成事業」「顕彰事業」「関連事業（文理融合の研究支援）」の３つの事業を柱に活動をしています。

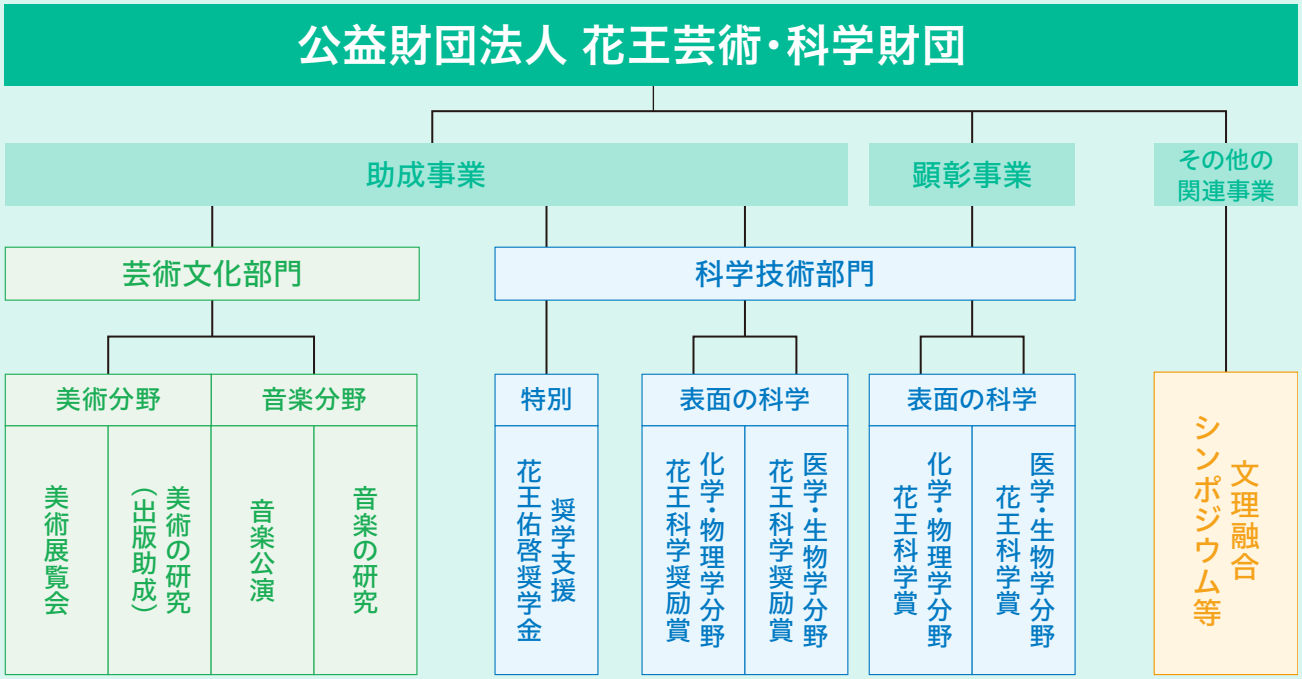
助成事業の芸術文化部門では、美術展覧会や音楽公演等の活動助成、美術や音楽の学術的な研究への助成を、科学技術部門では大学院修士課程の学生に対する給付型の奨学金支援や、化学・物理学、医学・生物学の分野で独創的、先導的な研究を行なう若い研究者に対し「花王科学奨励賞」という名の助成を行なっています。

顕彰事業では、化学・物理学、医学・生物学の基礎・基盤研究において独自の成果をあげた研究者に「花王科学賞」を贈り、称えています。

関連事業では、芸術文化と科学技術の融合をめざす研究を支援する文理融合シンポジウムを開催しています。2020年は「未来」をテーマに、漠然とした未来への不安に対して私たちが取り組むべきヒントについて一般の方を対象に50名で開催し、後日1,300名を超える方々にオンラインによる限定配信を行ないました。

設立30周年を迎えた2020年は、財団のこれまでの歩みをまとめた「30周年記念誌」を刊行し、関係各所に配布しました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により芸術文化部門の助成支援先の企画延期・中止が相次ぐ中、文化を守る一助として支援制度の一部見直しを行ないました。30周年を一つの通過点とし、これからも事業内容の一層の充実に努力していきます。

事業組織図



※2020年12月現在

設立30周年記念誌の刊行

シンポジウム「未来～わたしたちにできること～」

社会貢献活動

災害支援

東日本大震災への取り組み

既存の社会貢献のプログラムや花王のリソースを活かしながら、NGO／NPO、企業、多様な組織と連携し、被災地の生活者に寄り添い、現地のニーズや課題に沿った活動を実施しています。

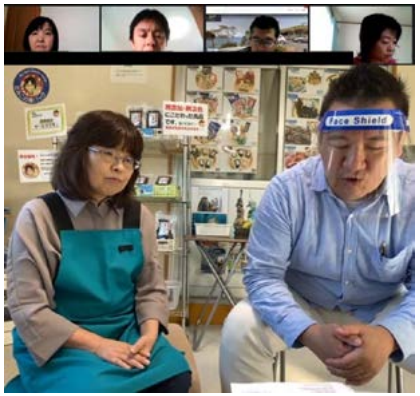
現在は「心のケア」と「自立的復興」の2つの柱に取り組んでいます。「心のケア」では、スマイルとうほくプロジェクトに2012年から協賛し、仮設住宅や災害公営住宅訪問を通じた交流や新しい暮らしを応援する取り組みを実施しています。「自立的復興」では、東北の復興に向け、中心となって活躍している復興リーダーの支援や社員ボランティアの活動を通じて、産業の復興やコミュニティづくりを支える活動を行なっています。花王社員による2020年の活動は以下の通りです。

復興支援活動のパネルを展示（全国事業場11カ所）

当初は「東北と『食』でつながろう！」をテーマに、3月4日～11日、全国事業場11カ所の食堂で、東北の食材を使用した郷土料理等の提供を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりました。

宮城県南三陸町ボランティア＆スタディツアー第7弾

10月24日にオンラインで実施、社員16名が参加。現地訪問で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、初めての試みとしてオンラインに変更しました。



南三陸町復興の担い手の方々とオンラインで交流

スマイルとうほくプロジェクト

岩手日報、河北新報、福島民報が主催する「スマイルとうほくプロジェクト」に継続して協賛しました。

イベントの実施

各県で予定していたイベントをさまざまな形でサポートする計画をしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベントが中止、現地へ訪問しての活動が困難となりました。

非常に厳しい状況下、昨年の豪雨災害により不通となっていた、三陸鉄道の全線開通や常磐線の不通区間の営業再開などのイベントに現地プロジェクトメンバーやNPO、グループ社員などの協力を得ながらサポートを実施しました。

3月20日の三陸鉄道全線開通を記念しオリジナルのヘッドマークを贈呈

#離れていてもつながれる

新型コロナウイルス感染症の影響で直接顔を合わせての交流の機会が減る中、「#離れていてもつながれる」を合言葉にこれまで花植えや手洗い、ハンドマッサージなどで交流した方々のもとへ国内外花王グループ社員のメッセージを添えた「ミニヒマワリ栽培セット」をお届けしたり、オンラインツールを活用した「オンライン語り部会」を実施するなど地域住民のみなさんとつながりつづけるため工夫をこらしたプログラムを実施しました。

社会貢献活動

社員からのメッセージを添えた「ミニヒマワリ栽培セット」

みちのく復興事業パートナーズ

「自立的復興」の大きな活動の一つとして、2012年6月より、「みちのく復興事業パートナーズ」に参画しています。被災地で事業に取り組み東北を支えていく次世代の復興リーダーを支援する企業コンソーシアムとして、認定特定非営利活動法人ETIC.〈エティック〉によって設立されたもので、現在、企業4社※が参画しています。将来東北の中心となることが期待される事業団体を育成支援する研修をはじめ、自立的復興に向けた共創を行なっています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から3月10日に8回目となるシンポジウムをオンラインで開催。「2030年から見た東北」をテーマとして、東北の未来について広く情報発信を行ない、当日は180人が視聴しました。

また、東北の事業団体へ向けた共創の場づくりの一環として、2021年1月14日にオンラインで「みちのく共創キャンプ オンライン2021」を実施し、約50人が参加しました。

※ 参画企業は株式会社ジェー・シー・ビー、株式会社電通、株式会社ベネッセコーポレーション、花王株式会社(2020年5月現在)

第8回みちのく復興事業シンポジウム

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト

東日本大震災で津波の被害を受けた地域の生態系の変化を調べるため、東北大学の教授を中心として、市民や学生、複数の企業から集まったボランティアたちがチームとなってモニタリング調査を行なっています。被災前のデータと比較することで、津波がどれだけの影響を及ぼしたか、またその後の生態系がどのように回復しているかを記録しています。この調査で得られたデータは、被災地域の生態系や希少種の保全、環境に配慮した復興計画のために役立てられます。2013年から社員がボランティアとして参加し、2019年までに累計68名が参加しています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全スケジュールが中止となり、これまでの調査の集大成として12月12日に、アースウォッチ・スペシャルトーク「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト 干潟のいきものたちの10年」と題してオンラインシンポジウムを開催しました。当日は114名が参加しました。

（主催:認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン）

干潟でのいきもの調査の様子を東北大学の先生方が説明

その他の災害支援

大規模災害発生時の被災地支援として、義援金と支援金の拠出を行なうとともに、行政や業界団体と連携して、被災者への物資支援を速やかに行ないます。

2020年は、令和2年7月豪雨の被災地支援として、建設型応急仮設住宅入居者に向けて、日常生活に役立てていただける生活用品をセットにして、各ご家庭へお届けしました。また、近年の災害多発に伴い、最も必要なタイミングで被災者支援活動に活用できるよう、社会福祉法人中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」への支援金の拠出を決定しました。

社会貢献活動

2020年の実績

物資支援

・令和2年7月豪雨被災地支援
熊本県（八代市、人吉市、芦北町、津奈木町、相良村、山江村、球磨村）の建設型応急仮設住宅の入居者に向けて、「花王　生活用品セット」を提供しました。（約800戸、約600万円相当）

基盤整備活動支援金

花王より社会福祉法人 中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」へ500万円の寄付を行ないました。

寄付金

・オーストラリア森林火災復興支援
花王（オーストラリア）より、2019～2020年に発生したオーストラリアでの大規模森林火災に対し、復興支援、自然回復のため約80万円の寄付を行ないました。

新型コロナウイルス感染症への対策支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた各地域において、衛生関連製品の提供や寄付金などを通じて、さまざまな分野の団体を支援しました。

2020年実績

義援金・支援金

・中国赤十字基金会を通じて、現地花王グループ（花王中国および佳麗宝化粧品中国）より義援金として150万元（日本円で約2,300万円）の寄付
・社会福祉法人　中央共同募金会が実施する、休校措置に伴い社会的に孤立することが懸念される児童や保護者に対する緊急支援活動への助成事業「臨時休校中の子どもと家族を支えよう 緊急支援募金」に100万円の寄付
・公益社団法人　企業メセナ協議会が、多くの芸術文化活動の自粛を余儀なくされ影響を受けている活動に対して実施する助成事業「GBFund（芸術・文化による災害復興支援ファンド）」へ100万円の寄付

物資支援

・湖北省武漢市の医療スタッフ向けに約3,700万円相当の物資を提供
・武漢からのチャーター便帰国者の隔離中の宿泊用物資とダイヤモンド・プリンセス号下船者等の宿泊用物資として総額約600万円相当の物資を提供
・医療従事者向けに総額約9,400万円相当の物資を提供
・花王中国より、上海市児童基金会などに約440万円（積送価格）相当の物資を提供
・花王USAより医療機関に約490万円（積送価格）相当の物資を提供
・花王オーストリアより、サロンでの新型コロナウイルス対応に必要な物品を約470万円（積送価格）相当提供
・花王（イギリス）、モルトンブラウンよりビューティーバンク、ハイジーンバンクへ約430万円（積送価格）相当の物資を提供